



Security Platform

守るだけじゃない。-物理セキュリティ-

株式会社セキュア（証券コード：4264）

■ Ella Hudson
■ Tokyo: 6-hour stay

■ Expression: Smile

■ 189cm: Blue shirt

■ People: 4

■ Object: luggage



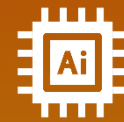
Mission

Make place Secure
Upgrade place Smart



Vision

AI × セキュリティで
新しい価値を創る



AI

(画像認識)



セキュリティ

01

会社概要

- 01 会社概要
- 02 業績ハイライト (FY2024 Q2)
- 03 業績見通し (FY2024)
- 04 成長戦略
- 05 Appendix

基礎情報

会社名	株式会社セキュア（英文表記：SECURE, INC.）
代表者	代表取締役 谷口辰成
設立	2002年10月（第2創業 2010年）
資本金	544,743,900円（2024年6月末現在）
本社	〒163-0220 東京都新宿区西新宿二丁目6-1 新宿住友ビル20F
子会社	SECURE KOREA, Inc.（当社100%） 株式会社ジェイ・ティー・エヌ（当社100%）
主な事業内容	セキュリティソリューション事業
事業許可等	【一般建設業】 国土交通大臣許可（般-1）第27739号 建設業の種類 電気工事業 国土交通大臣許可（般-1）第27739号 建設業の種類 電気通信工事業
所属団体	一般社団法人 日本コンピュータシステム販売店協会 一般社団法人 日本ディープラーニング協会

社員数



2024年6月末時点

役職員数 **195名**※（連結）

※派遣・出向社員等含む

拠点



「ソフト」と「ハード」で構成された物理セキュリティシステムを提供
顧客の求めるセキュリティニーズに応じて、AI（画像認識）を活用した付加価値を実装



※AI未実装のサービスも存在します

3つのカテゴリーでサービスを提供

主に「オフィス・工場・商業施設」などに対してセキュリティソリューションを展開

1	<h3>SECURE AC</h3> <p>入退室管理システム Access Control</p>	<h3>SECURE VS</h3> <p>監視カメラシステム Video Surveillance</p>	<h3>SECURE Analytics</h3> <p>画像解析サービス/その他</p>
提供サービス	<p>* 主要商品</p> <p>入退室管理システム SECURE AC (画像認識実装)</p> <p>SECURE AI Office Base (画像認識実装)</p> <p>のぞき見ドロッカー (画像認識実装)</p>	<p>* 主要商品</p> <p>監視カメラシステム SECURE VS</p> <p>FaceTracker (画像認識実装)</p> <p>SECURE VSaaS</p>	<p>* 主要商品</p> <p>混雑COUNT (画像認識実装)</p> <p>vem count (画像認識実装)</p>
売上構成比	<p>FY2023 : 1,471百万円</p> <p>売上構成比率 : 28.4 %</p>	<p>FY2023 : 3,547百万円</p> <p>売上構成比率 : 68.3 %</p>	<p>FY2023 : 171百万円</p> <p>売上構成比率 : 3.3 %</p>

02

業績ハイライト FY2024 Q2

- 01 会社概要
- 02 業績ハイライト (FY2024 Q2)
- 03 業績見通し (FY2024)
- 04 成長戦略
- 05 Appendix

FY2024 Q2進捗

売上高

3,143百万円

前年同期比
+19.3%進捗率
+50.3%

営業利益

238百万円

前年同期比
+18.5%進捗率
+79.4%

- ✓ Q2の売上高及び営業利益は単独・累計ともに概ね計画通りに推移、累計では過去最高を更新、通期に向けて順調な進捗
- ✓ 売上総利益率は、SECURE AC（入退室管理システム）大型案件の影響により前年から改善
- ✓ セールス・マーケティング人員は前期末比で12名の純増で計画対比で順調に進捗、採用の強化は継続して取り組む
- ✓ SECURE AI STORE LAB2.0は、ミニストップ、NTT東日本、テルウェル東日本の4社共同で、ミニストップポケットで実証を開始
- ✓ 2024年1月にJTN社を完全子会社化、施工現場におけるシナジーを実現することで競争力向上や事業効率の向上を図る

FY2024の見込み

売上高累計

6,250百万円

前年同期比
+20.4%

営業利益累計

300百万円

前年同期比
+59.6%

- ✓ 売上高は物理セキュリティに対する需要の拡大を取り込み継続成長
- ✓ セールス人員の質の向上を通し将来的な大規模案件の土台を作る
- ✓ 展示会等に対してはFY2023と同程度の投資を想定、新規顧客の獲得と新たな商材の販売を継続

Q2売上高は前年同期比+19%の成長、計画対比においても順調に進捗

Q2単独では季節的な売上減少と先行投資による販管費増のため営業赤字だが計画通りの水準で着地

Q2累計でも売上・利益ともに計画通りであり、通期に向けて順調な進捗

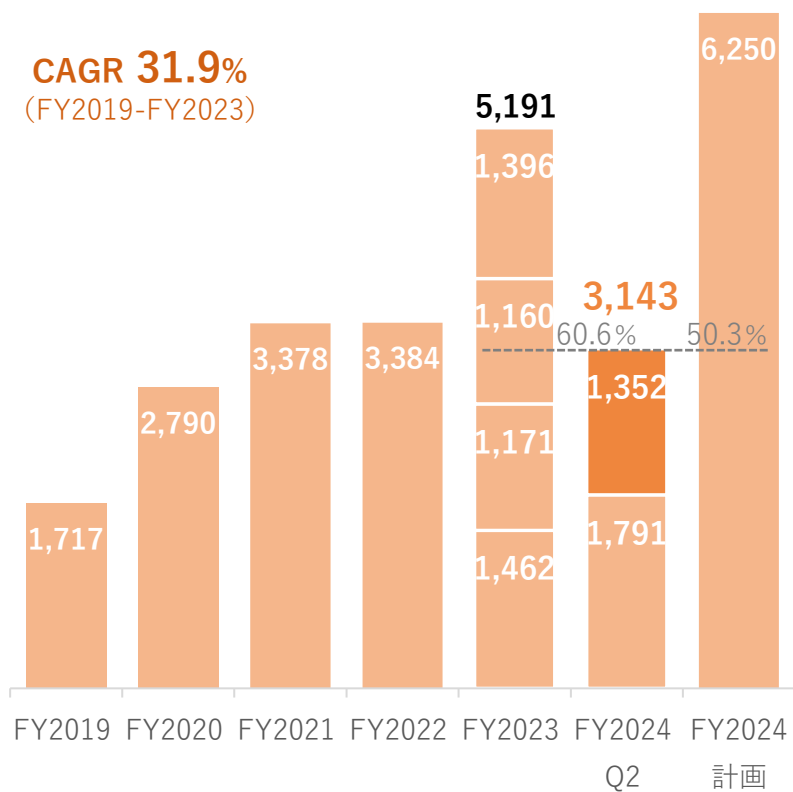
(百万円)	FY2023 Q2実績	FY2024 業績予想*	FY2024 Q2実績	前年同期比 (FY23-24比較)		業績予想 達成率
				増減額	増減率	
売上高	2,634	6,250	3,143	+509	+19.3%	50.3%
SECURE AC (入退室管理システム)	752	-	976	+224	+29.8%	-
SECURE VS (監視カメラシステム)	1,793	-	1,869	+75	+4.2%	-
SECURE analytics (画像解析サービス/その他)	88	-	109	+21	+23.8%	-
SECURE ES (エンジニアリングサービス)	-	-	188	-	-	-
売上総利益	1,041	-	1,299	+257	+24.7%	-
販売管理費	840	-	1,060	+220	+26.2%	-
営業利益	201	300	238	+37	+18.5%	79.4%
営業利益率 (%)	7.6%	4.8%	7.6%	-	-	-
経常利益	197	280	231	+34	+17.6%	82.8%
税引前当期純利益	197	-	231	+34	+17.6%	-
当期純利益	165	230	185	+20	+12.5%	80.8%

Q2売上高は季節変動性の影響もあったが、計画通りに進捗

売上総利益率はSECURE AC（入退室管理システム）大型案件の影響により前年から改善

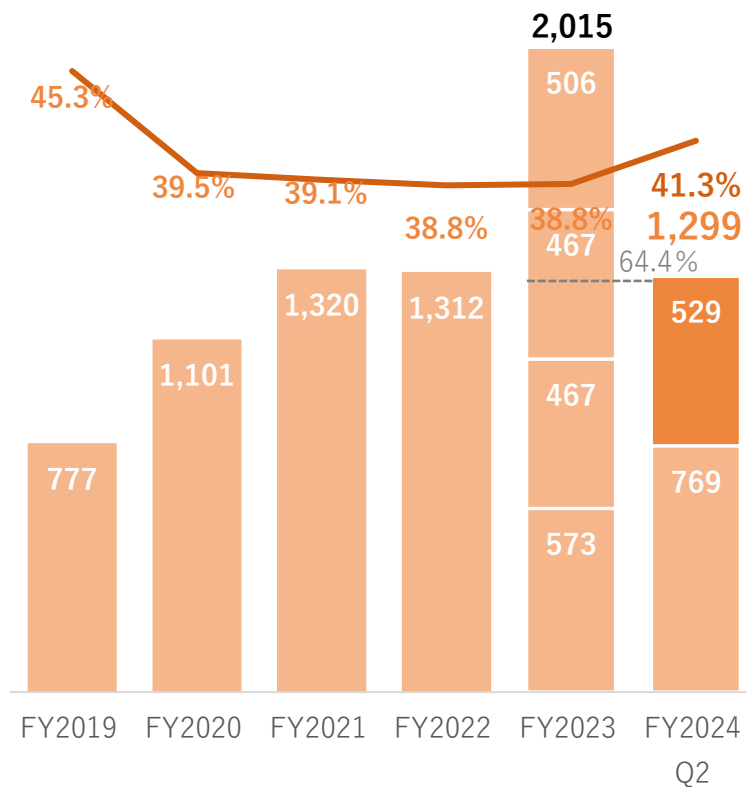
売上高

(百万円)



売上総利益・総利益率

(百万円・%)

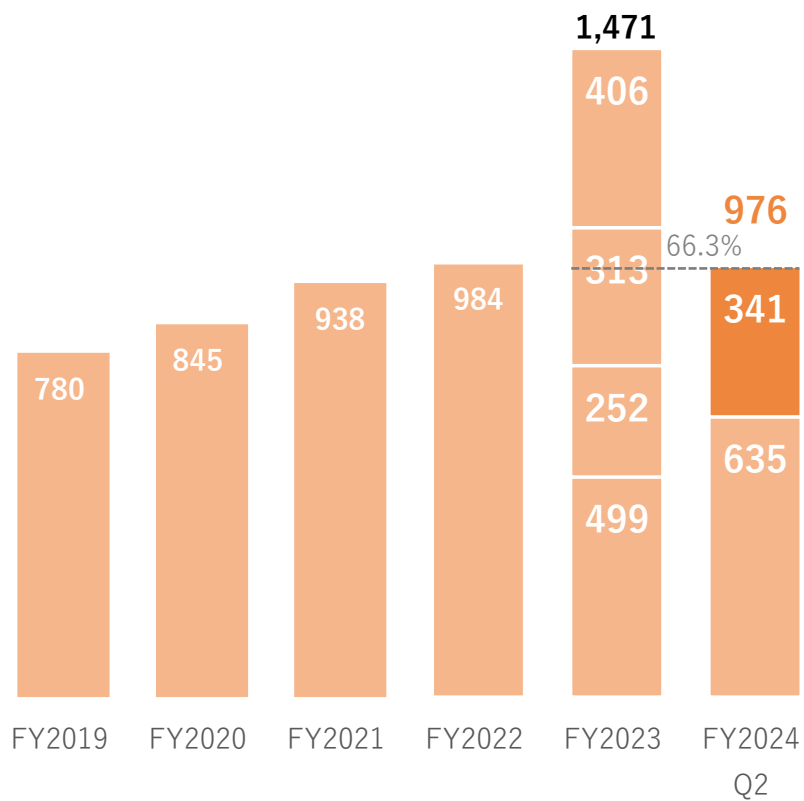


「SECURE AC」業績推移

通常・大型案件が好調に推移し、前年同期比+29.8%の増収で着地
継続して付加価値の高い認証方式の採用が増えており、案件単価が上昇傾向

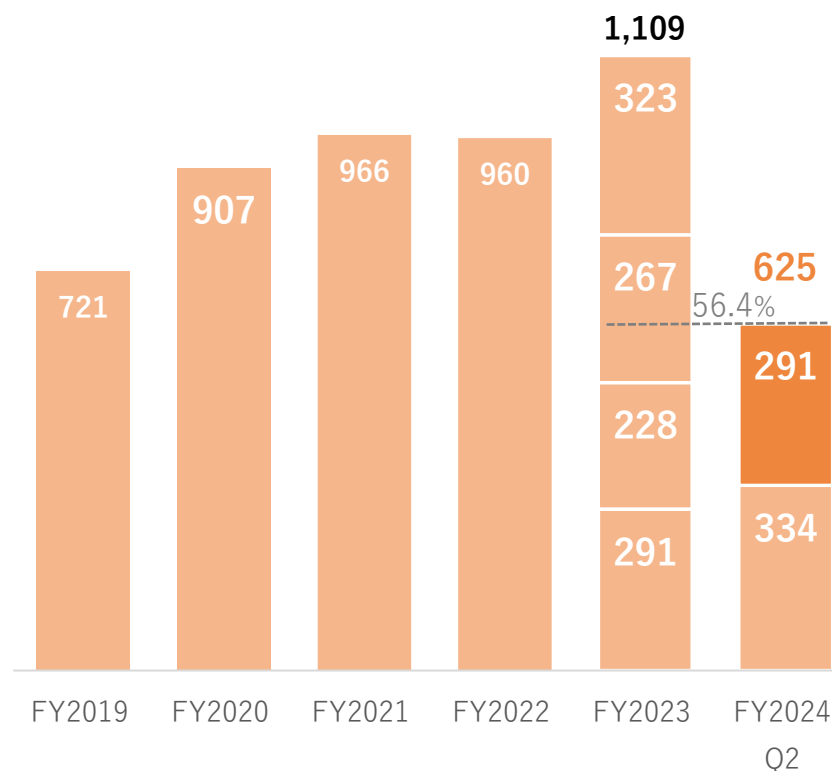
売上高

(百万円)



SECURE AC 導入件数

(件)



入退室管理の方法として、セキュリティへの意識や接触への意識の変化からカードキーや指紋認証ではなく顔認証への意識が高まっており、件数は前年同期比+68%の増加サービスの高付加価値化に伴い案件あたりの売上の拡大が期待される

カードリーダー



指紋認証



顔認証



- ✓ 紛失・なりすましのリスクの回避
- ✓ 接触による健康リスクの低減
- ✓ カード等の発行にかかる手間の削減
- ✓ 認証スピードの向上



社員のツールであるスマートフォンの有効活用としてスマホで入退室を

導入企業

エイベックス株式会社

事業内容

音楽事業、アニメ・映像事業、デジタル・プラットフォーム事業など

導入年月

2022年2月

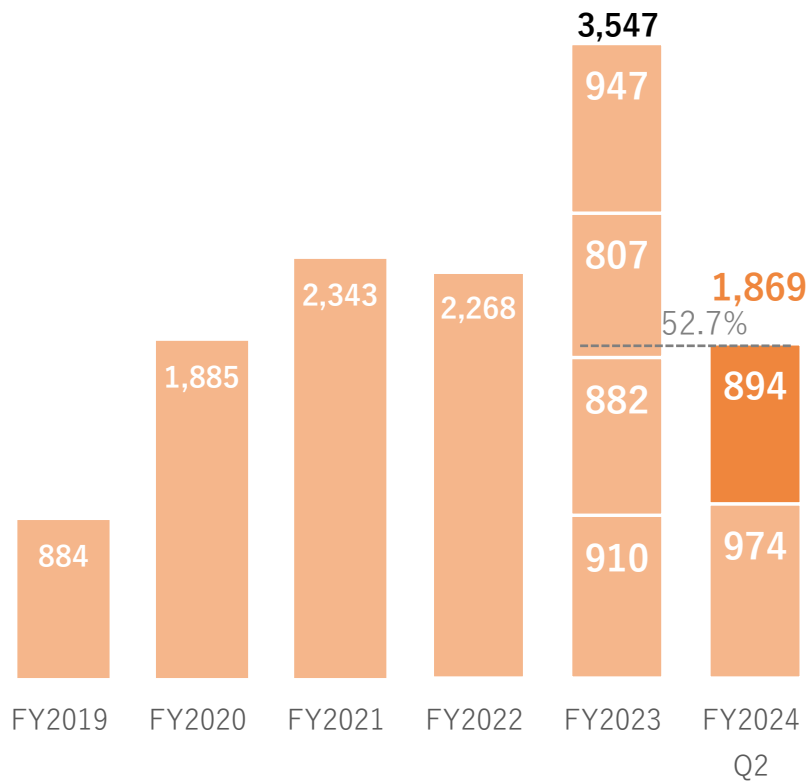
- ✓ オフィス移転を機にカードを廃止し社用スマホと連携した顔認証による入退室システムに一本化
- ✓ カードの発行・回収等の手間を削減し、セキュリティ面のリスクを低減
- ✓ 従来利用していたシステムよりもスムーズな認証

※ 事例詳細はHPをご覧ください。 <https://secureinc.co.jp/case/detail.html?id=1587>

季節変動性の影響はあるが、概ね計画通りに着地
 大型案件は前年と同水準で推移、中・小型案件も順調に進捗

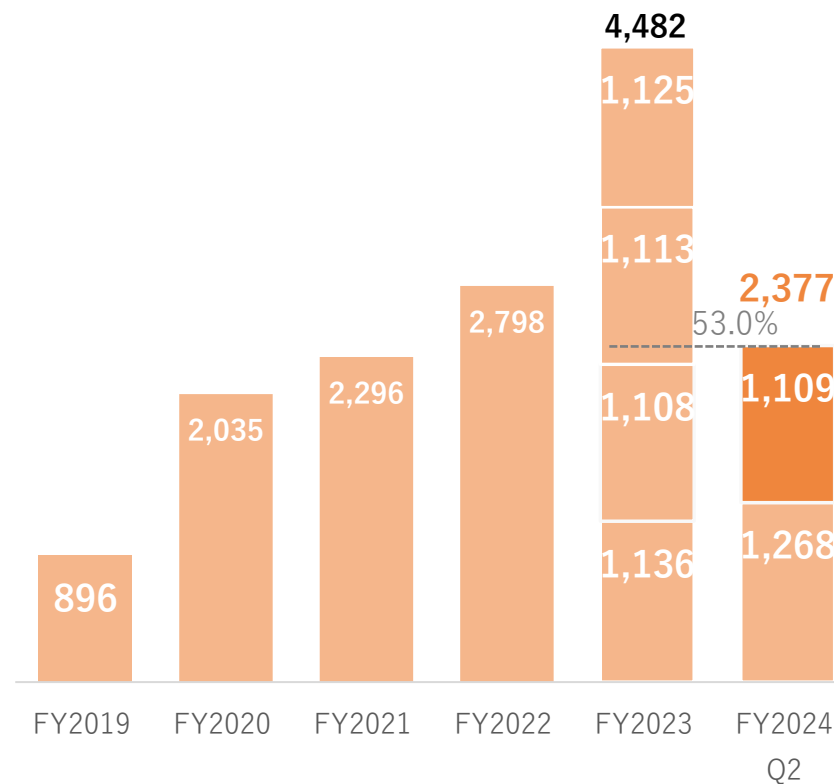
売上高

(百万円)



SECURE VS 導入件数

(件)

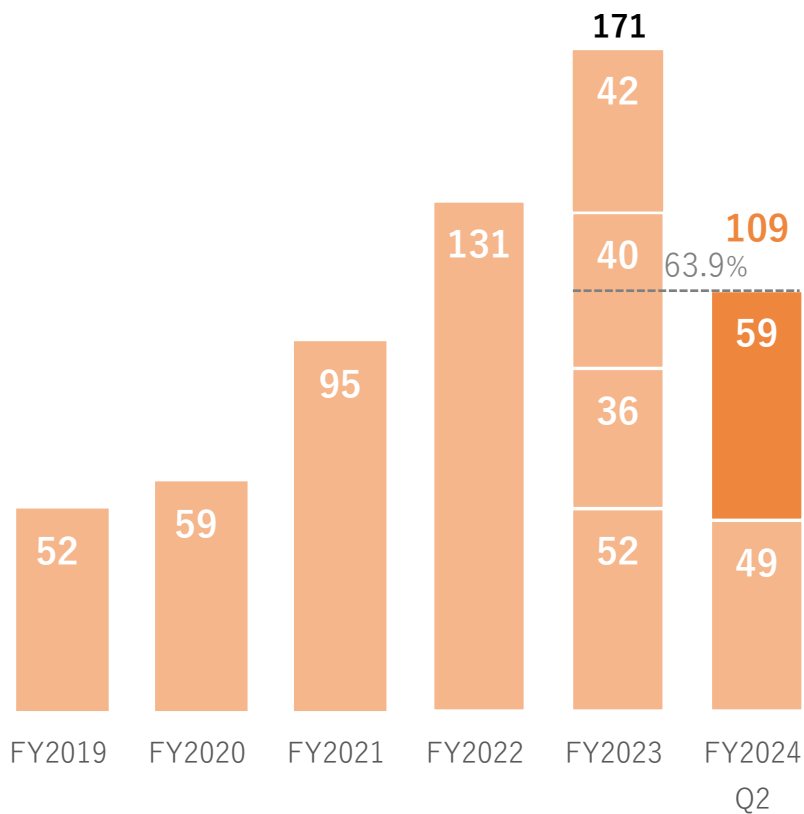


「SECURE Analytics/その他」業績推移

大型案件の受注もあり計画対比で好調に推移、ストックも積み上がっており
前四半期対比でも順調に伸長

SECURE Analytics / その他 売上高

(百万円)



SECURE Analytics 導入事例



ショッピングモールにて出入口毎の通行人数を計測
売上データと連携してマーケティングに活用

JTNの売上高は1-3月(1Q)及び10-12月(4Q)の年末・年度末に偏る傾向

Q2業績はQ1四半期対比で減収も想定内であり、通期に向けてQ2を底に伸びる見通し



JTN買収に見込むシナジー

施工管理領域におけるノウハウの強化

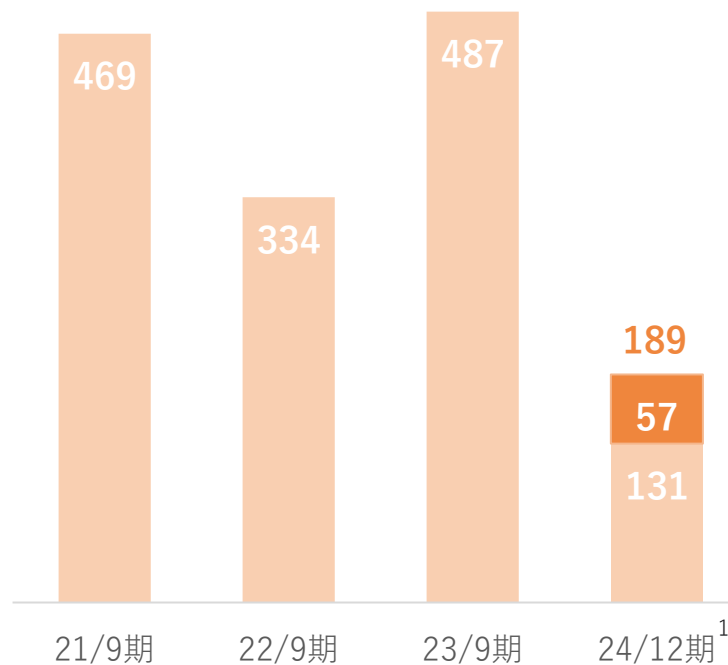
ジェイ・ティー・エヌの持つ知見により、施工の現場における原価の削減や管理の効率化を実現し、
当社の提供するサービスの競争力強化を図る

施工及び施工管理のキャパシティの拡充

設備工事のキャパシティが全国的に不足する中、施工や施工管理の現場で動けるリソースを確保することで、
営業担当との分業体制を通じた営業部の効率向上や一部の施工の内製化による収益性向上を図る

SECURE ES 売上高

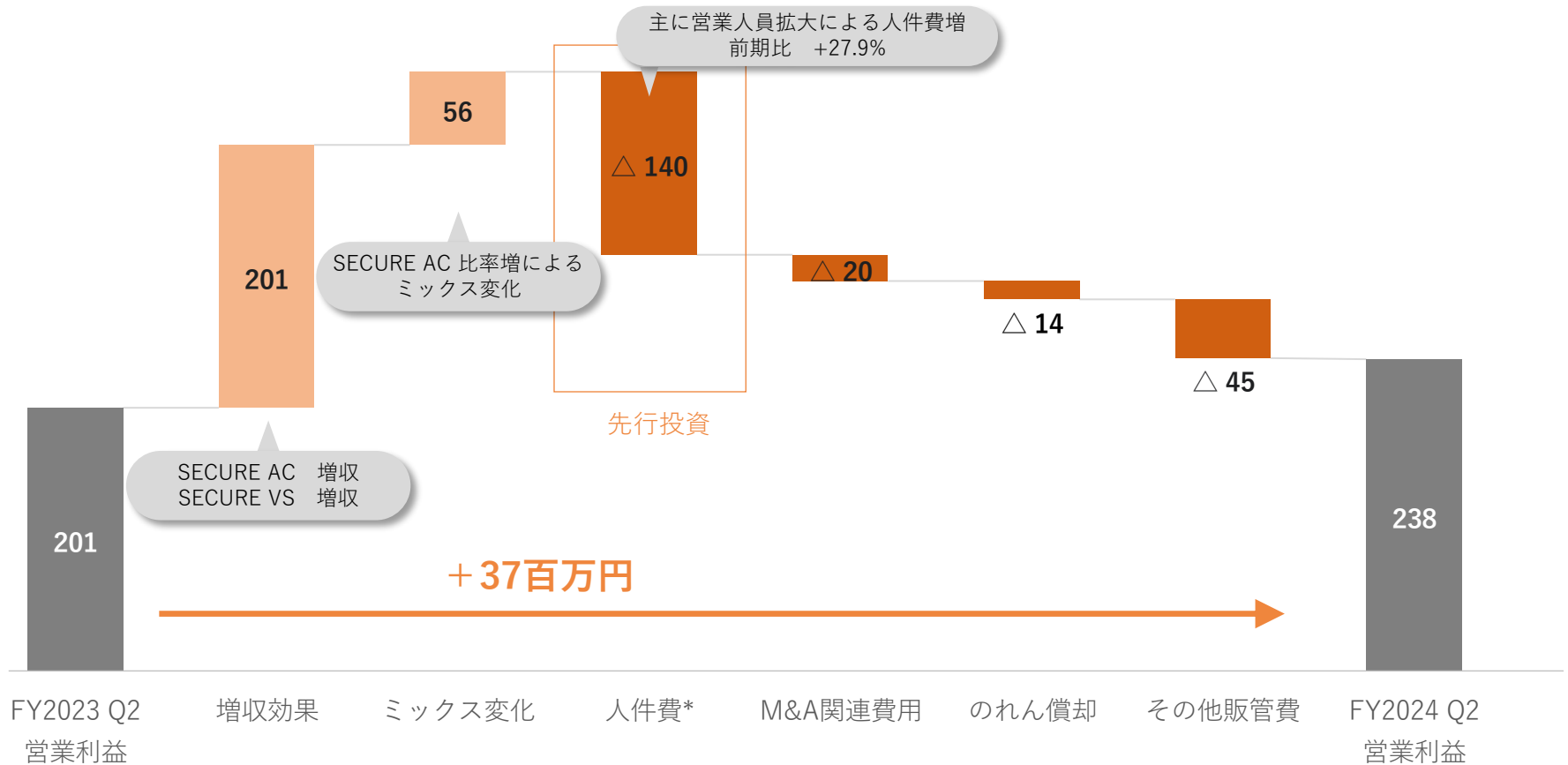
(百万円)



1: セキュアの12月期決算に合わせ24年1-3月から開示
23年10-12月は238百万円

営業利益増減要因分析

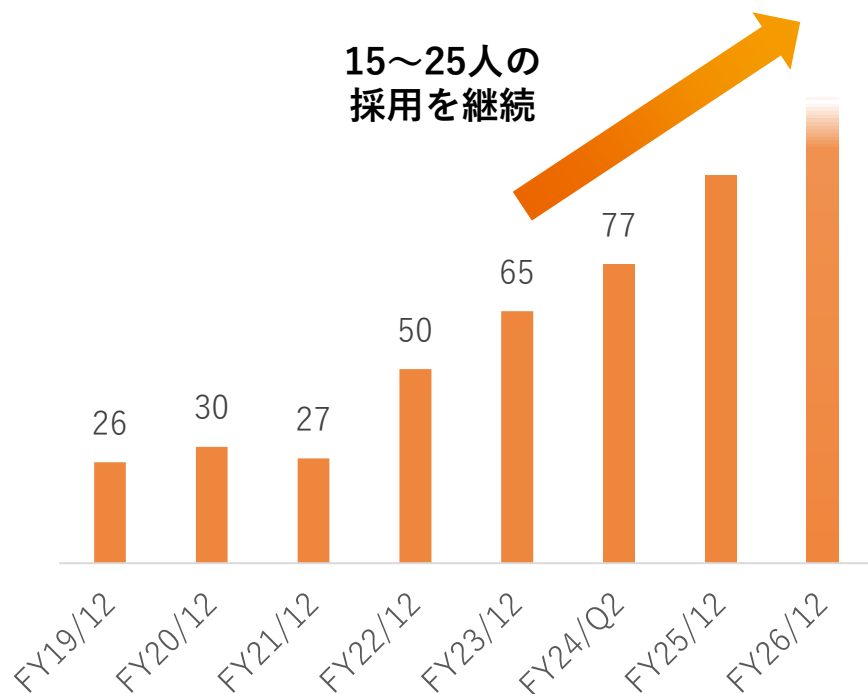
増収効果および売上総利益率の改善効果により、営業利益は37百万円増の238百万円で着地
 販管費の増加は主に人件費増によるもの、1月に実施したM&Aの関連費用を支出



*人件費 = 給与・賞与・法定福利費等

新規採用は計画通り進捗しており前期末比12名の純増、また7月に札幌オフィスを開設
セールス人員に向けた当社独自の研修制度を構築し、早期の戦力化を目指す
短期的にまずは100名体制を構築する

セールス・マーケティング人員数推移



セールス人員の成熟化までは約1.5~2年
先んじて採用を行い、業績拡大に繋げる

拠点拡大



- 22年7月名古屋オフィス開設
- 23年1月大宮・横浜オフィス開設
- 23年4月広島オフィス開設
- 24年7月札幌オフィス開設

基盤強化



- マーケティング活動の強化
- Security System Labにおける独自の教育制度
- 採用力の強化

セキュア、ミニストップ、NTT東日本、テルウェル東日本4社でミニストップポケットでの実証を開始
ウォークスルー型店舗の商用化を目指す



店舗写真



- 1 QRコードをかざして入店
- 2 商品を手に取る
- 3 そのまま退店

店舗利用イメージ

ウォークスルー型店舗のメリットと当社の特徴

顧客利便性の向上

- ✓ ウォークスルー型の購買形式によりレジ待ちの待機時間を抑制

店舗運営の効率化

- ✓ レジ人員の削減
- ✓ レジ設置が不要になることによる効率的な店舗空間の利用



導入コストの抑制

- ✓ カメラによる映像検知のみとすることで導入コストを削減（一般的なウォークスルー型店舗では重量センサーを使用）

- ✓ オフィスビルなど、リピート客で混雑しがちだが特定商品を素早く購入したいニーズのあるコンビニ店舗
- ✓ レジ待ちによる混雑が発生しがちなコンサート会場やスタジアムの物販シーン

などを意識した展開を継続

顔認証機能を活用して万引きを防ぐ防犯サービスを手掛けるCIAとの資本業務提携を開始
「AI×セキュリティと拡販力」「万引きロス削減」で小売業界の人手不足解決に取り組む



社名 CIA株式会社
代表取締役 長岡 秀樹 氏
設立 2015年9月11日
事業内容 顔認証システム運用トータルサポート
防犯セキュリティーコンサルティング
マーケティングサポート
本社 広島市中区八丁堀11-8
エフスペース八丁堀 7F



CIA株式会社代表取締役 長岡氏 (右) と当社代表取締役 谷口 (左)

CIAのサービスの仕組み

万引き犯の発見

CIAのセンターに登録



万引き犯の発見・登録に顔認証を活用

店舗にメール等で通知
警戒や声掛け等を通じて
万引きを防止

万引きなどによる
不明ロスを7割程度削減した実績

03

業績見通し FY2024

- 01 会社概要
- 02 業績ハイライト (FY2024 Q2)
- 03 業績見通し (FY2024)
- 04 成長戦略
- 05 Appendix

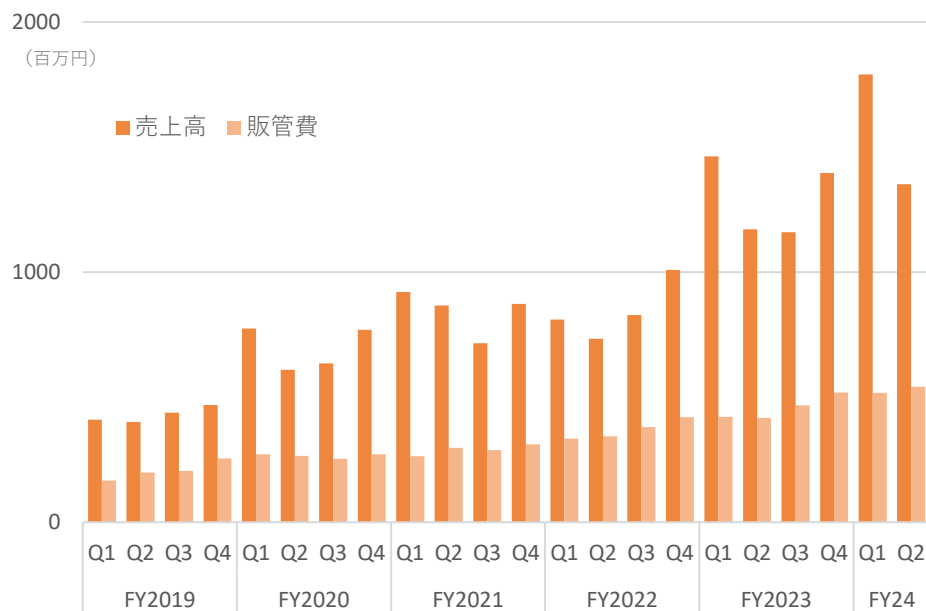
物理セキュリティに対する需要の拡大を背景に、年率20%の売上成長を見込む
 営業利益については、人材への投資を中心とした先行投資を継続するも、前年同期比59%成長の
 300百万円での着地見通し

(百万円)	FY2023	FY2024	FY2024業績予想			修正後対前期比
	実績	Q2実績	修正前*	修正後**	修正額	増減率
売上高	5,191	3,143	6,250	6,250	-	+20.4%
営業利益	187	238	250	300	+50	+59.6%
営業利益率 (%)	3.6%	7.6%	4.0%	4.8%	-	-
経常利益	175	231	230	280	+50	+59.6%
税引前当期純利益	171	231	230	280	+50	+63.3%
当期純利益	168	185	190	230	+40	+36.3%

*修正前業績予想は2024年2月14日に発表 / **修正後業績予想は2024年5月14日に発表

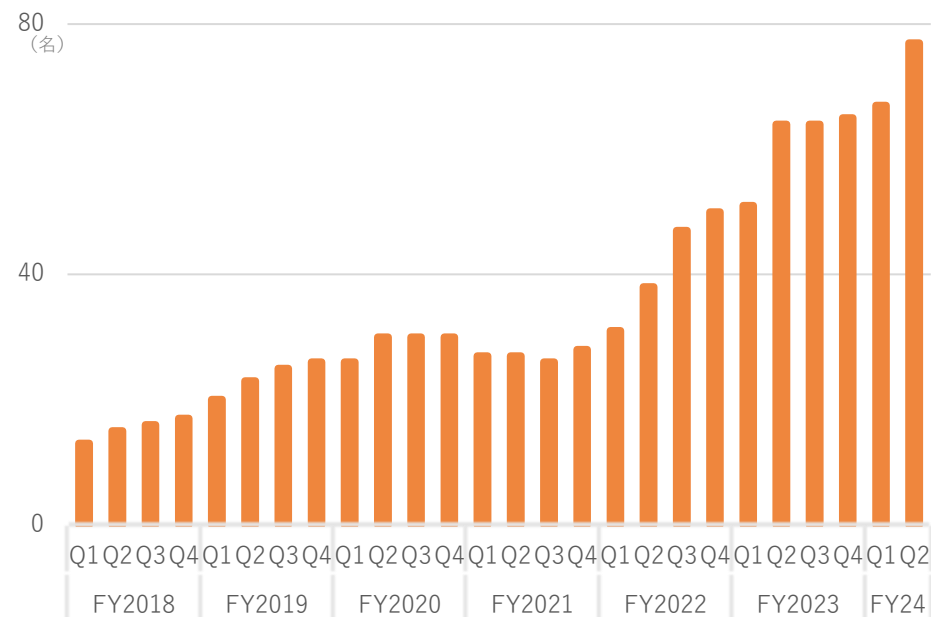
- ✓ FY2024Q2はYoYで+19.3%成長。売上・利益共に過去最高を更新
- ✓ 季節変動性と大型案件の計上タイミングでQ1は高め、Q2をボトムに伸びていく想定
- ✓ 採用したセールス人員は3か月～半年程度で寄与し始め、1.5～2年程度での習熟を想定
- ✓ 成長に向けた投資を継続し、営業体制強化や生産性向上に取り組む

売上高・販管費推移



売上高は季節変動性としてQ1、Q4が強め

セールス・マーケティング人員数推移



FY2022以降に採用したセールス人員は
1.5～2年程度での戦力化を想定

04

成長戦略

- 01 会社概要
- 02 業績ハイライト (FY2024 Q2)
- 03 業績見通し (FY2024)
- 04 成長戦略
- 05 Appendix

3つの成長戦略

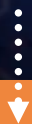
1

既存ビジネス

パートナーの深掘・発掘

+

技術力強化



導入件数UP

領域拡大



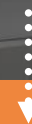
新たな顧客

2

Retail DX

AI STORE LAB

収益化



新たな収益

既存のセキュリティソリューション事業で基盤を固め、**SaaS型ソリューションやAI技術を活用した新規ビジネスで成長を加速**させ、安心安全でスマートな社会の実現を目指す

方針

更なるAIの実装力を強化し
企業価値の最大化を図る

2024年～ 本格化

AI STORE 事業

新規事業

③ 海外展開

② スマートビルディング

② スマートシティ

② AI STORE

① 既存サービスの拡大

監視カメラシステム
SECURE VS

FaceTracker

SECURE
AI Office Base

顔認証
のぞき見ブロック

入退室管理システム
SECURE AC

SECURE VSaaS

混雑COUNT

現在

事業基盤構築

AI実装を強化したサービスによる拡大

新規事業・海外展開での拡大

05

Appendix

- 01 会社概要
- 02 業績ハイライト (FY2024 Q2)
- 03 業績見通し (FY2024)
- 04 成長戦略
- 05 Appendix



1 SECURE AC

入退室管理システム

オフィスや店舗・工場等にカードリーダーや指紋・顔認証などの入退室管理システムを提供。クラウド型のサービスではオフィスの利用状況や混雑度、社員の健康管理も把握可能。勤怠管理や在籍管理等も行える。

主な導入先



主にオフィス
へ導入

利用シーン

10-1,000名

オフィスセキュリティや
フィットネスなどでの
会員管理にも利用可能

特徴

段階的な拡張や
サテライトオフィス
等の多拠点管理にも
優れている

クラウド オンプレ

4.6% ← 95.4%

(FY2023)

クラウド強化中



2 SECURE VS 監視カメラシステム

数台の小規模システムから、10万台の超大規模システムまで、顧客ニーズに応じて様々なデバイスと顔認証等のAI（画像認識）を組み合わせて最適な監視カメラシステムをオンプレミス・クラウドで提供。

主な導入先



主に商業施設
へ導入

利用シーン

小売店での
万引き対策や
ビルや工場等の
セキュリティ対策

特徴

最大10万台超

カメラ台数4台程度の小規模システムから10万台超の大規模システムまで運用性の高いシステムを構築・提案

クラウド オンプレ

1.9% ← 98.1%

(FY2023)

オンプレ主体



3

SECURE Analytics

画像解析ソリューション

AI（画像認識）技術を用いて、商業施設やイベント会場、避難所などの混雑度を分析、予測するソリューションを提供。API連携で施設の混雑状況を外部掲示するなど柔軟な運用にも対応。

主な導入先



(オフィス) (商業施設) (工場)

主に商業施設
へ導入

利用シーン

施設内の混雑状況を
リアルタイムで
Webサイトや
店頭サイネージ
で表示

特徴

SaaSモデル

1台から利用可能な
サブスクモデル
監視カメラの画像を
流用することも可能

クラウド オンプレ

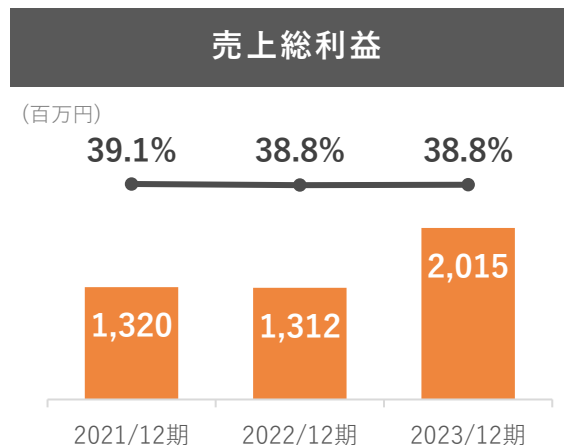
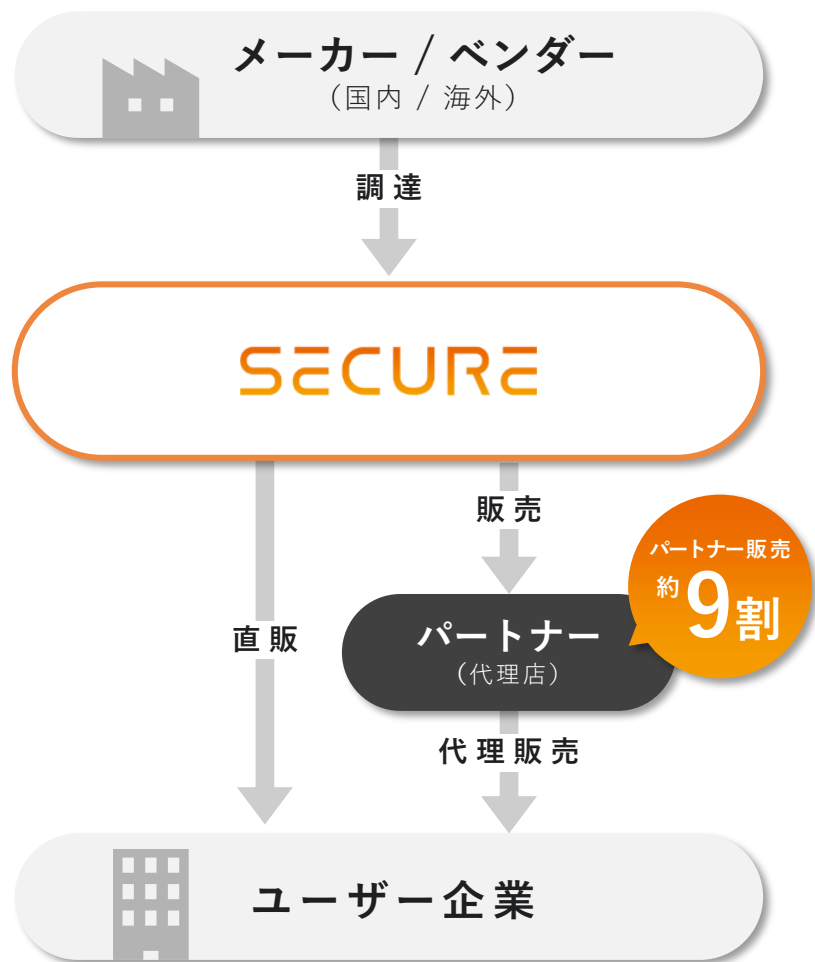
100% 0%

(FY2023)

クラウド100%

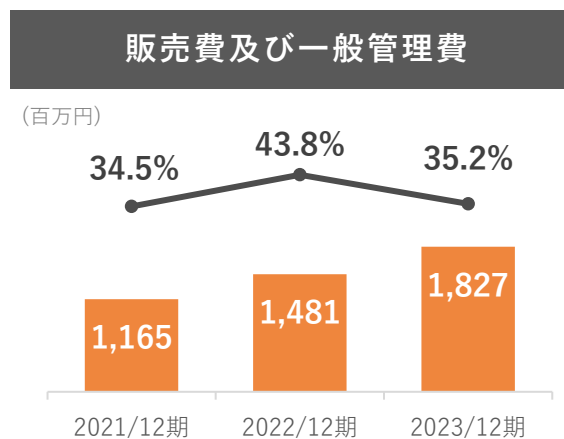
該当事業	サービス名	詳細
1 AC (Access Control)	入退室管理システム SECURE AC	IPベースのオンプレ型入退室管理システム 。カード認証またはAI（画像認識）を活用した顔認証・指紋認証等のID認証リーダーとサーバーのみの構成で拡張性に優れ、小規模から大規模まで対応が可能。
1 AC (Access Control)	SECURE AI Office Base	オフィスのフリーアドレス化やサテライトオフィスの活用等、新しいワークスタイルを実現する クラウド型入退室管理システム 。AI（画像認識）を活用して事前登録を行った社員の入退室管理の他、測温による健康管理や勤怠管理、オフィスの稼働状況、混雑度合、勤怠状況、勤務時の表情等様々な分析が可能。
1 AC (Access Control)	顔認証のぞき見ブロックャー	パソコンのぞき見（ショルダーハッキング）による 情報漏えいをブロックするAI顔認証ソリューション 。登録者以外の顔を検知すると画面をロックし操作中の情報の機密性を担保する。パソコンへのアクセスをコントロールするという概念から、SECURE ACとして分類。
2 VS (Video Surveillance)	監視カメラシステム SECURE VS	幅広い製品群からクライアントの課題を解決する オンプレミス型監視カメラシステム 。アナログカメラ、IPカメラ、レコーダーなど多種多様なラインナップを揃えており、異なる規格のカメラであっても統合して運用することが可能。カメラ4台から10万台を超える大規模システムまで構築運用が可能。監視カメラの映像を分析する専用デバイスも提供。
2 VS (Video Surveillance)	SECURE VSaaS	初期導入費用を抑え、必要に応じて拡張が可能な小規模向け クラウド型監視カメラシステム 。モバイルやPCで高画質な映像を確認することができ、7日間から90日間の録画プランを提供。防犯としての活用方法以外にも各店舗・事業所の業務遂行状況を本社で確認する等、一括管理も可能。
2 VS (Video Surveillance)	FaceTracker	AI顔認証技術を採用した 監視カメラ用顔認証ソリューション 。登録人物、非登録人物を識別し、外部への通知と顔情報を管理する。顔認証によるログ検知によって勤怠管理にも応用可能。
3 Analytics	vem count	AI（画像認識）専用ステレオカメラで施設の入退場者、 滞留人数を正確に計測するサービス 。ダッシュボードによる多拠点一括管理が可能。領域制限やアラート出力も可能。
3 Analytics	混雑COUNT	AI（画像認識）専用ステレオカメラによって人数を計測し、5段階のアイコン表示で 混雑具合を見える化するサービス 。一般利用者向けにWebサイトにて各種施設（温泉・商業施設等）の混雑具合を表示させたり、従業員向けに社内ポータルサイト等にてカフェ・食堂等の混雑度合をリアルタイムで表示することが可能。運営開始後は蓄積した混雑度合のデータを解析し、1週間の混雑度合予測も可能。

売上の約9割をパートナー経由でユーザー企業に販売。売上はパートナーに対しての売上を計上
 変動費として主にカメラ等の機器やシステムの原価が、固定費として人件費が多くを占める



■ 売上総利益 (額)
 ● 売上高対比 (%)

- 売上原価は **機器の仕入費用が中心**
- SECURE AC (入退室管理) と ECURE VS (監視カメラ)の **売上構成比が主に影響**



■ 販売費及び一般管理費 (額)
 ● 売上高対比 (%)

- 人件費が中心であり **固定的** (営業・技術・管理を全て含む)
- **従業員の採用に概ね連動**
- 2022年12月期以降は **継続して営業人員を増員**

オフィスデザイン会社・警備会社・OA機器販売会社等、企業におけるセキュリティニーズを瞬時に感知できる業種を中心に幅広い**200社超の販売パートナー企業**（一部抜粋）。
業界の大手企業が販売パートナーとなっており、大型案件の獲得にもつながる

**RICOH****UCHIDA****KOKUYO****JVCKENWOOD****+200社以上**

監視カメラ市場（国内）、入退室管理市場（国内）ともに堅調に成長

監視カメラシステム市場（国内）

（億円）

2027年予測
1,626億円



入退室管理市場（国内）

（百万円）

2027年予測
815億円



出典：富士経済「DXを実現するセキュリティ関連技術・市場の将来展望2023」

出典：富士経済「DXを実現するセキュリティ関連技術・市場の将来展望2023」

監視カメラ・入退室管理の市場は将来的にセキュリティ市場やIoT市場と融合し、高付加価値カメラが必須となり潜在台数が大きく増加する想定

多様化、複雑化するニーズには、ハードとソフトを統合したシステムを構築できる技術力が重要

多

高付加価値カメラの潜在台数

少

IoT市場

10兆4,001億円



セキュリティ市場

1兆2,124億円



監視カメラ・入退室管理市場

2,441億円

現在の売上高
51.9億円

進行中
セキュリティ
高度化

進行中
無人店舗
スマート店舗

計画中
スマートビル
スマートオフィス

計画中
スマートシティ

重要な要素

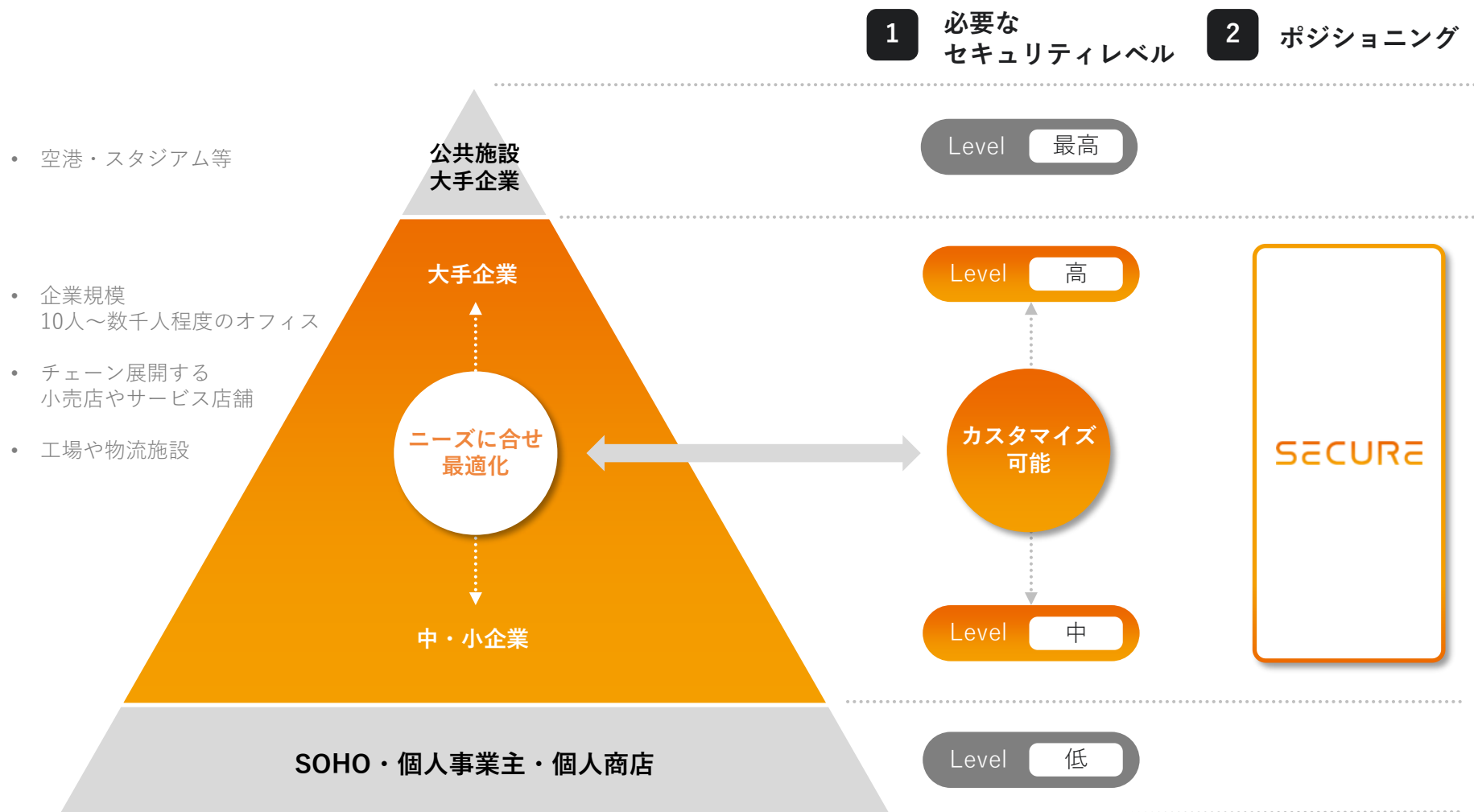
低

技術力・価値創造力（ハードウェアとソフトウェアの統合力）

高

出典：富士経済「DXを実現するセキュリティ関連技術・市場の将来展望2023」およびIDC Japan「国内IoT市場予測」に基づき当社で作成

当社がメイン領域とする「中・小企業～大手企業」の領域で事業を展開するには、様々なデバイスでシステムを構築＋一定のセキュリティレベルが必須であり、**単一IoT事業者では開拓できない領域。**



企業の規模や業種等によって、**求められるセキュリティニーズは様々**であり、
 当社のソリューションは、そうした**様々なニーズに柔軟に対応**。

当社の
 ポジショニング

	対象	外部犯罪対策	内部不正対策	内部不正対策 認証取得	内部不正対策 法規制FISC,HACCP等 重要機密
 オフィス	主な対策	<ul style="list-style-type: none"> 遮断 	<ul style="list-style-type: none"> 入退室マネジメント ログの保存 	<ul style="list-style-type: none"> 高度な入退室マネジメント ログの保存 画像データの保存 	<ul style="list-style-type: none"> より高度な入退室マネジメント ログの解析 画像データの長時間保存
	推奨システム	<ul style="list-style-type: none"> 鍵・テンキー式ロック スマートロック 	<ul style="list-style-type: none"> 入退室管理システム 	<ul style="list-style-type: none"> 入退室管理システム 監視カメラシステム 顔認証、AI 	<ul style="list-style-type: none"> 入退室管理システム 監視カメラシステム セキュリティゲート
	対象	小規模店舗のレジや店内の簡易的なモニタリング			
 リテール	主な対策	<ul style="list-style-type: none"> 遮断 	<ul style="list-style-type: none"> 入退室マネジメント ログの保存 	<ul style="list-style-type: none"> 高度な入退室マネジメント ログの保存 画像データの保存 	<ul style="list-style-type: none"> より高度な 入退室マネジメント 画像データの解析 画像データの長時間保存
	推奨システム	<ul style="list-style-type: none"> 鍵・テンキー式ロック スマートロック 簡易カメラ 	<ul style="list-style-type: none"> 入退室管理システム 監視カメラシステム 	<ul style="list-style-type: none"> 入退室管理システム 監視カメラシステム 顔認証、AI 	<ul style="list-style-type: none"> 入退室管理システム 監視カメラシステム セキュリティゲート
	対象	小規模店舗のレジや店内の簡易的なモニタリング			

導入企業数の推移

大規模商業施設からITベンチャー、食品工場まで10,800社以上の導入実績。
 様々なお客様の働く環境に、安心・安全とプラスアルファの価値を提供。



導入クライアント (一部抜粋)



サービス提供の範囲

A社








一般的なソフトウェア系企業

B社

一般的な監視カメラ入退室システム企業

当社

画像認識からソフト・ハードや設置環境まで、それぞれ高い専門性を持っているので、リソースの無駄なくパフォーマンスを最大限に引き出したシステムの提供が可能

	A社	B社	当社
 画像認識	↑ ↓		↑ 一気通貫して対応可能 ↓
 ソフトウェア			
 サーバ構築			
 デバイス		↑	
 ネットワーク構築			
 システム設計			
 設置環境			
アフターフォロー			

POINT

- 1,000種類以上のデバイスから最適提案
- パフォーマンスとコスト・品質の最適化
- オンプレ or クラウド
ニーズに合わせて提案

高度な顔認証・画像認識技術を活用し、顧客ニーズと世の中の流れを汲んだサービスを開発。

特に顔認証関連商品は、ライセンス・デバイス合わせて**9,300件以上の導入実績**。

非接触ニーズで需要の高まっている**顔認証の国内シェアは数量と売上高でNo.1を獲得**

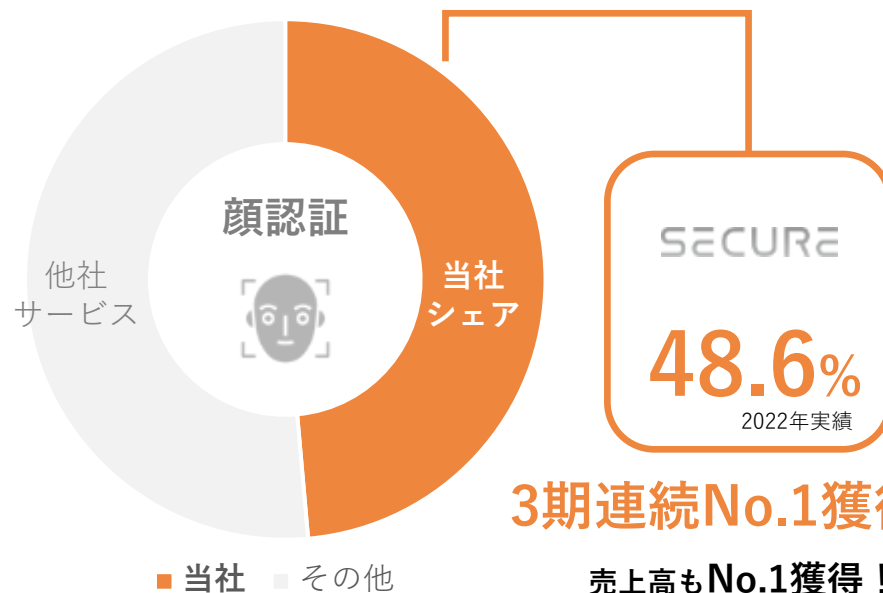
顔認証関連のサービスの概況



※ライセンス：「顔認証のぞき見ブロック」 「Face Tracker」の顔認証ソフトウェアライセンス
 ※デバイス：入退室管理システム導入時に設置される顔認証デバイス

顔認証国内シェア率（入退室管理用途）

オフィスやフィットネス
 食品工場等で幅広く導入
コロナ禍の非接触ニーズで今後も需要高まる



3期連続No.1獲得!

売上高もNo.1獲得!

出典：富士経済 「2021~2022 セキュリティ関連市場の将来展望」「DXを実現するセキュリティ関連技術・市場の将来展望2023」の2020~2022年実績（数量ベース）

Security System Labでシステムの最適化の研究と専門人材の育成を行ない、
高度なセキュリティサービスを顧客にとって最適なソリューションとして提供できるように研究開発を実施

多様な要素を常にアップデートしシステムの高度化を追求





導入サービス SECURE AC

複数拠点 多フロアのオフィスを一元管理
18扉すべてを顔認証で入退室管理



導入企業

企業名 : スマートニュース株式会社

事業内容 : ニュースアプリ「SmartNews」の
企画・開発・運用

所在地 : 東京都渋谷区

導入年月 : 2021年 5月



SmartNews

従業員数

約500名

導入理由

- ・ テレワークに対応できるシステムへの更新
- ・ 新入社員の登録の煩雑さの低減
- ・ フロアごとの在籍者管理をデジタルで実施したい
- ・ 体温記録台帳の廃止

選定ポイント

- ・ スピード・精度・コストに優れた顔認証システム
- ・ 入退室の認証でストレスを感じさせない
- ・ 運営コストも抑えつつ、堅固なセキュリティレベルを実現
- ・ 今後の分析サービスのアドオンにも期待



次世代型複数店舗にロス率削減のために監視カメラシステムを導入

選定のポイント

- 運用性に優れた高度なモニタリングシステム
- 豊富なラインナップ+互換性
- データ損失のリスクに対応
- AI実装や他システムとの連携性に優れたスケラビリティ

導入サービス SECURE VS

店舗経営におけるロス率の削減を目指す

 Retail AIソリューション	 スマートショッピングカート	 リテールAIカメラ
 セキュリティ ソリューション	 セキュリティカメラ	 モニタリングシステム

* AIによる万引き犯によるロス率の分析や削減を目指した実証実験進行中

導入企業

TRIAL

企業名 : 株式会社トライアルカンパニー
事業内容 : 小売/ソフトウェア開発/物流/商品開発・製造
所在地 : 福岡県福岡市
導入年月 : 2020年～順次

従業員数(グループ)

約5,295名

導入サービス SECURE AC

トライアルグループのAI拠点である「リモートワークタウン宮若」の施設内に顔認証をはじめとした**入退室管理システム SECURE AC**を導入



顔認証



指紋認証



混雑見える化で安心して入店

導入サービス SECURE Analytics

● クラウドアプリでいつでもどこでも混雑状況を把握することが可能

*監視カメラ映像とインターネット環境があれば利用可能です。
*現地にサーバーの設置は必要ありません。



導入企業



企業名 : 株式会社ドトールコーヒーのフランチャイズ加盟店であるマルエイフーズ株式会社

所在地 : 高知県高知市

導入年月 : 2021年 8月

導入理由

- ・ 新型コロナウイルスなどの感染症拡大の影響により、来店客数の減少を予測して店舗DXを検討
- ・ 感染対策や従業員のオペレーション改善
- ・ 群衆や混雑の見える化を行いたい
- ・ 感染対策や従業員のオペレーション改善
- ・ 店内の混雑状況を計測を行える
- ・ 来店客が1階から3階の店内全フロアの混雑状況を事前に確認できる
- ・ 従業員がスムーズに来店客を空いている席へ案内することが可能になった

(百万円)	FY2022 実績	FY2023 実績	FY2024 Q2実績	前期末比 増減額
流動資産	1,651	2,408	2,938	+529
現金及び預金	474	808	1,248	+439
受取手形及び売掛金	459	786	849	+62
商品	621	725	703	△22
固定資産	341	341	786	+445
総資産	1,993	2,749	3,724	+975
負債	1,150	1,727	2,503	+776
買掛金	227	342	361	+18
有利子負債*	603	874	1,478	+603
純資産	842	1,022	1,221	+199
自己資本比率	42.3%	37.2%	32.8%	△4.4%

*有利子負債 = 短期借入金+1年内返済予定長期借入金+長期借入金

		FY2016*	FY2017*	FY2018*	FY2019*	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023
		15期	16期	17期	18期	19期	20期	21期	22期
売上高	(千円)	998,292	1,383,684	1,473,179	1,717,077	2,790,181	3,378,576	3,384,508	5,191,074
経常利益	(千円)	△123,965	39,304	66,109	△56,570	27,637	148,041	△183,605	175,425
親会社株主に帰属する当期純利益	(千円)	△140,387	31,525	46,750	△47,191	33,032	131,476	△227,627	168,790
資本金	(千円)	227,000	227,000	227,000	294,000	294,000	490,213	536,808	540,827
発行済株式総数	(株)	120,554	120,554	120,554	138,054	138,054	4,590,620	4,717,020	4,744,920
純資産額	(千円)	41,032	71,950	119,313	421,740	455,236	983,086	842,138	1,022,308
総資産額	(千円)	602,748	577,176	786,339	1,261,002	1,468,294	1,981,467	1,993,000	2,749,733
1株当たり純資産額	(円)	340.37	596.83	989.71	19.84	29.10	214.15	178.53	215.42
1株当たり当期純利益	(円)	△1,164.52	261.51	387.80	△13.04	7.98	31.67	△48.52	35.67
自己資本比率	(%)	6.8	12.5	15.2	33.4	31.0	49.6	42.3	37.2
自己資本利益率	(%)	-	55.8	48.9	-	7.5	18.3	-	18.1
営業キャッシュ・フロー	(千円)	-	-	-	△145,328	△132,113	122,231	△268,301	99,185
投資キャッシュ・フロー	(千円)	-	-	-	△40,341	△83,268	△70,779	△144,709	△36,117
財務キャッシュ・フロー	(千円)	-	-	-	471,241	90,585	252,140	210,163	270,575
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	-	-	-	496,345	372,110	675,933	474,194	808,950
従業員数	(人)	51	48	57	68	91	98	113	154

※FY2019までは単体でFY2020より連結の数値、FY2018までは監査を受けていないため参考数値

- 本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。将来予想に関する記述には様々なリスクや不確実性が含まれており、その結果、実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。
- これらの記述に記載された結果と大きく異なる可能性のある要因には、国内及び国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- また当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証していません。